

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時、理念を復唱し(年頭に理念の意味と理解を皆で話し合う)職員と共有し、常に理念にそったサービスの実践に努めている。又、苑内にも貼り意識したケアの取り組みをしている。	「職員自身が楽しむこと、瞬間を楽しむ」と理念を実践に結びつける取組みが行なわれていることが、現場職員の方からの聞き取りからも伺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩を日課とし顔馴染みの関係になり、月1回の手紙の交流が始まった。又苑行事や防災非難訓練等の呼びかけや職員は地域のゴミ拾いも積極的に行っている。年1回の夏祭りを楽しみにして下さる方も多くなっている。	「文の日(23日)」の手紙を通じた地域の方々との交流や、季節行事を通じた交わりが日常的に行なわれ、その中での利用者の出番づくりに配慮していることが分かります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やご家族に気軽に来苑して頂き、入居者様との交流を通じ認知症の人の理解の機会、又苑での勉強会では包括支援センターの介護教室の方や地域の方を招いたり、出向いたり認知症の理解を深める取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、行政や地域の方、ボランティア、ご家族、包括支援センター、民生委員他に参加して頂き事業所、入居者様の近況報告、行事の参加、検食等で意見や評価、助言を受け事業所のサービスの向上に活かしている。議題によっては消防署員の参加を	毎回市の担当者も出席し、事業所の現状や課題等について意見交換がなされていることが記録などから読み取れます。特に防災などの点で、継続的な話し合いを続けていることは評価の高い点です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市、包括支援センター等に事業所の通信を送り実施内容をお知らせしている。又運営推進会議には必ず出席して頂き、意見や評価を頂いている。不明な点や相談もできるような取組をしている。	運営協議会等の機会を利用したり、地域包括支援センターとの連携体制のもと事例についての協議などを行なえる体制が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の実施で身体拘束の重要性を理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。又拘束しないケアの掲示を苑内にし職員が常に意識できるようにしている。契約時にご家族に説明して納得して頂き、同意を頂いている。	法人としての研修会を開催するなど、組織的な取組みが行なわれています。また、実践場面での事例からリアルタイムでの検証を行っている点は評価に値する点です。	左記のような実践について、記録として整理されることが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底	定期的な勉強会で虐待防止の徹底に努め		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会で虐待防止の徹底に努めている。事業所内での虐待がないよう注意し入居者様の状態、状況の変化の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を実施し、又外部研修会に参加して理解を深め、入居者様の状況の把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明で理解し納得して頂いたうえで契約を行っている。不明な点など気軽に質問して頂ける雰囲気作りをしている。又変更等がある場合はその都度説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来苑時や年2回の家族会に意見を聞く機会やご本人、ご家族にアンケートの実施で希望、要望の把握に努め運営やケアの改善に努めている。職員全員で共有し改善すべき点は改善し日々の介護に活かせるよう努めている。	家族会や日々の面会を通じて、また事業所側からアンケートを実施するなど、利用者・家族からの意見を実践に反映させようと取組んでいることが諸記録などから分かります。	利用者家族アンケートの様式については、希望や要望についてより具体的に把握できるような工夫が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングやその都度意見を聞くように努めている。個別に面談し希望や要望等を聞く機会を作り、提案等があれば可能な限り運営に反映させるよう努めている。	管理者への意見具申や事業所内での検討など、職員意見を丁寧に取り扱う体制ができています。また提案等が日々の実践などに反映されていることが、現場の職員の方への聞き取りからも分かります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績等を把握し評価している。年頭に目標を計画し目標に向かって向上できるように支援に努めている。又やりがいを持てるように有資格者には手当を支給し、希望休暇が取れるような配慮もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師派遣による勉強会、自設勉強会や苑外研修の参加も行っている。資格やスキルアップのためのセミナー等は優先して参加出来るよう補助金、手当等の体制作りがある。研修会参加の希望休暇は優先している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列事業所内での交流の機会を年計画し実践している。又グループホーム連絡会の勉強会やセミナー等に参加し、同業者との交流をはかりサービスの質、職員の向上や運営の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人、ご家族と面会し不安や心配事等を言葉の中からくみ取り、安心して入所出来るように関わっている。又入所後も関わりのなかから本人の気持ちを受容し、共感し馴染みの生活に近い環境作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族が困っている事、不安な事、要望等を聞き可能な限りできる対応で安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態の把握に努め、必要なサービスをご本人、ご家族と話し合い同意を頂いている。又医療機関の受診、買い物、理美容等の希望、要望の対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事や残存機能を十分に使い馴染みの料理を教えて頂いたり、手伝ってもらった事に感謝の言葉を述べて自信や張り合いを持って助け合いながら、共に生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が状態、状況に応じて泊まる事が出来るようにしている。苑行事の参加や日々の暮らしを見て頂きながら、ご家族と話し合いを持ちご本人の支えになる関係作りをに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を身近に置き、安心した環境作りの工夫をしている。又馴染みの場や人間関係が途切れないよう外出、散歩、ドライブの支援も行っている。ご家族が入浴介助に来苑されたり、県外の娘様宅への長期外泊等個々に合わせた支援を行っている。	利用者の年齢や生活歴など個別的背景に配慮した取組みが行なわれています。なじみの場所への小集団での外出や、個別での支援などきめ細かく対応していることが個別記録や広報誌などからも読み取れます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で過ごす時や個別、グループなどその時にあった過ごし方が出来るよう配慮している。共にレクリエーションや、食材の下ごしらえを通し助け合いが出来る場面作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去又は亡くなられた後もご家族からの相談に応じたり、野菜やお米を届けて頂いたり、苑行事の呼びかけ等で関わりが継続できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言った言葉を「」を使い記載し、各自の思いを職員全員でカンファレンスたことをノートに記録し、可能な限り本人本位の実現に向けて工夫している。又ご家族やご本人にアンケートをとり、希望要望を取り入れる機会を作っている	前回の評価時に課題としてあげた点について、事業所として組織的に取り組んでいることが分かります。今後も更に工夫を重ねていきたい点です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境をご家族に尋ね、極端に変化のない生活ができるよう、職員間で情報を共有し本人本位の生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で出来ること出来ないことを見極め、毎朝の引き継ぎで、その日の様子を申し送り、職員全員が身体的・精神的状況の現状を把握し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体・精神的状況の把握をし、ご家族からの希望・要望を取り入れ分析し、チームで話し合い、本人家族の意向が反映された介護計画を作成している。又ご本人の体調や意向の変化に伴い、その都度計画を見直し、ご家族の同意を貰い介護計画の見直しをして	本人や家族の希望等に沿った介護計画づくりに取り組んでいることが、一連の記録から分かります。	今後は、本人の思いや家族の希望などが把握しやすいシートの活用など、これからの進展に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自のバイタル・食事・水分量・排泄回数・体調変化を記録にし、その日の変化や気づきを職員間で共有し改善すべき点やご本人の状況に応じて話し合い、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望、要望を話し合いながら、柔軟な支援やサービスが提供出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方、ご家族の方の協力を得ながら地域行事(ふるさと祭り、公民館活動、お接待、花見等)に出かけ昔の事を思い出せる機会作りをしている。又地域の方との手紙の交流を通し馴染みの関係作りを築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時ご本人、ご家族の希望でかかりつけ医を決め、定期的な往診や受診で病状の安定を保っている。緊急時や体調の変化に応じその都度受診や相談助言を受けている。ご本人の状況に応じ専門医の受診もご家族の協力のもと柔軟に支援している。	個別に医療機関への受診支援が行なわれています。ご家族との連携のもと状態に注意が必要な方には担当職員が付き添い状況を医療機関に伝えるなど、細やかな対応がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で情報や気づきを大事にし状況の変化に応じすぐに看護師と相談、連絡出来る体制にある。又かかりつけ医、専門医の往診、受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、国東地域ホットネットの共通の連絡表で情報交換をしている。入院中も状態把握が出来るように病院との連絡を密にとっている。又連携室を通し、退院の調整をはかっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ご家族に事業所の出来ること出来ないことを説明し、理解、同意を頂いている。ご本人の病状に応じケアし、ご本人、ご家族の意向、希望を確認しながら医療関係との連携をとっている。	かかりつけ医や協力医、地域の総合病院とも連携し、終末期に向けた支援体制を形づくっています。ご家族に対しても、利用者の常態に応じて意向を確認して対応する体制をとっていることが分かります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署立ち合いのもと定期的に講習会や自主訓練も行っている。急変や事故発生時のマニュアルを作り職員が常に心がけている。又職員のわかるところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域、行政に呼びかけ消防署立ち合いのもと訓練の実施し、昼夜問わず自主訓練を定期的に行っている。避難マップの作成や地震津波を想定した避難訓練も行っている。防災非難持ち出し品のチェック、防災無線の活用もしている。又消火栓、防火用水の位置の確認も職員全員が把握している。	運営協議会などでの災害時の対応や、非難訓練への地域の方の参加など組織的に取り組んでいることが分かります。自動通報システムの設置など、夜間の災害時の対応への配慮も伺えます。今後は、外部支援者との連携を考慮した掲示など、事業所として具体的に取組まれることを望みます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々その時、その場に応じ、一人ひとりにあった尊厳のある言葉かけや接し方に努めている。定期的に勉強会を全職員で開催し、日々の申し送りやカンファレンスで言葉かけや対応が適切であったかどうか確認している。	利用者の個別背景に基づいた配慮がされています。方言の使用や呼称など、状況に応じて対応していることが、現状の視察と現場職員の方への聞き取りからも分かります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで本人が自己決定できるように配慮している。食事、入浴、外出等のさまざまな場面で思いや希望が言えるような環境作りを工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるものの個々の希望や思いを重視した生活支援をしている。起床、食事時間、入浴可否等について本人の意向を優先し、可能な限り本人のペースで過ごしてもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に入浴し、清潔感ある身だしなみに気を使っている。化粧品を持ち込んで使用したり、髭剃り、爪切り、2ヶ月に1度の散髪を行ったり、家族の支援で散髪やカラーリングをされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員同じテーブルを囲み、家族的な雰囲気作りをしている。又ご家族の方が食材を持ち込み、馴染みの献立作り、食べたいもののリクエストを聞き献立の変更を行ったり、入居者と一緒に食事の下ごしらえ、片付け等しながら楽しく食事ができるよう努めている。	地場の食品を使用し、利用者の馴染みの献立と調理など食を楽しめる取組みが行なわれていることがわかります。職員と一緒に食卓を囲み、献立の説明や旬の食材から会話を広げたり、食が楽しみとなるような取組みが行なわれています。今後は、視覚的な工夫についても検討されることに期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量、水分摂取量を把握できるよう記録している。又個々に応じた栄養バランスを考え、1日30品目の食材を目標に献立を工夫している。水分摂取量にはさまざまな工夫で、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに口腔ケアを呼びかけ、夕食後義歯を預かり、ポリドントで洗浄し口腔ケアができる方は自分で行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄状況を記録し、排泄パターンを把握できるようし、状況に応じた声掛け、トイレ誘導を行っている。可能な限り普通の下着使用で自立にむけた支援に努めている。	現在全介助の利用者はおらず、補助具の使用とタイミングを見計らった誘導で、自立に向けた支援が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を使用し毎朝ヨーグルトの摂取で便秘にならないように心掛けている。又運動(散歩、体操)をし、水分摂取量の確保をしながら排泄表を利用し、早めの対応ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前後の健康状態をチェックし、基本的に2日に1回の入浴であるが、希望に応じ毎日でも入浴できる体制がある。又季節感ある、菖蒲湯や入浴剤を使用し入浴時間を楽しんでいただいている。ご家族の方の入浴支援で安心して入浴される方もいる。	毎日の午後からが入浴できる時間として設定されており、1人あたり週3回程度利用されている。利用者の状態や希望に応じ柔軟に対応できるような体制がとられています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、テレビや本を見て頂き室温、照明はご本人の希望で調整している。又ご本人希望で馴染みの布団や家具を持ち込んで頂き安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示のもと看護師が管理し、職員全員の入所者の薬について把握し、2、3重のチェックをし確実な服薬の支援をしている。又服薬の用法、用量等がわかるよう処方箋はすぐ確認できる所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を知り、個々に応じた役割や楽しみごとを見極め支援している。嗜好品については可能な限り提供している。草取り、洗濯物たたみ、買い物の付添等で、感謝の気持ちを表す事により、生活に張りや喜びを持って頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日課として散歩、買い物等に出かけたり、家族、ボランティアの方の協力を得、季節に合わせてのドライブ、馴染みのある場所への外出、地域行事への参加ができるように支援している。	利用者の状態を捉え、その場での外出の声かけと対応など、タイミングを逃さない支援が組織的に行なわれていることが現状の生活場面から視認できました。日々そのような点に気をつけていることが、現場の職員の方への聞き取りからも裏付けられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方はお金を所持していない。必要な時には苑が立て替え1ヶ月に1度請求している。又買い物に同行したり、ご家族と一緒に買い物に出かける事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行事の時、苑からの案内に入居者が手紙を書いて同封したり、近隣の方との毎月の手紙のやりとりをしている。又ご家族からの電話の取次ぎもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑の玄関、廊下、リビングの壁に季節に応じた飾り付けを職員、入居者と一緒に行っている。又苑の中庭には野菜、花を植え一緒に収穫したり、花をつんだり季節感をあじわっていただいている。玄関、居間、トイレ、浴室等の場所には目印をつけわかりやすくしている	飾り付けや家具の配置など、事業所で検討し取り組んでいることが分かります。今後採光などの点について、検討を期待します。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、玄関にソファを置き、思い思いの場所でくつろいで入居者同志話をされている。又一人になれる場所のスペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの家具、寝具、ご家族の写真を持ち込み思い出の品で安心できる居室作りに努めている。又身体状況や好みで畳の使用で居心地の良い居室作りもしている。	左記のほか仏壇の持ち込みなど、利用者ごとに落ち着いた空間になるように支援していることが分かります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自部屋の入口に自分の写真を貼り、トイレ、浴室もわかりやすく表示している。苑内はバリアフリーで手すり設置され、玄関、リビングから中庭へとスロープ手すりを伝い自由に出入りできる。又リビングから居室、中庭への出入りの安全確認ができる。		